

人生勝利の武器(マタイ 26:31-35)

良いことがあってうれしいな、幸せだと思ふことは普通でしょう。しかし、そのような気持ち、状態は長くは続かないものです。むしろ、周りの人が自分を困らせたり、環境がとてもしんどかったり、その前にいる自分はとて無能な存在に思えたり、また自分なりには頑張ったのになかなか評価されない、認められないということがほとんどではないでしょうか。そのような中で私たちはどのように勝利ある人生を歩むことができるのでしょうか。クリスチャンの私たちは神のみことばを通して、その答えをしっかりと教えられたいと願います。

今日の聖書を見ますと、イエス様がもうすぐ十字架にかかる予定なので、あなたがたは皆わたしのことでつまずいてわたしから逃げていこうとおっしゃいました。すると、ペテロが真顔で言います。「たとえみんなイエス様を裏切って逃げたとしても、私にはそんなことはありません。絶対逃げるなどありません」と。イエス様は「違うよ。あなたは目の前でわたしを三度否定するようになるだろう」とおっしゃり、ペテロは「いいえ。もし死ぬことがあっても、私はイエス様から離れることなどはありません」と断言し、他の弟子たちも皆同じことを言ったと書いてあります。しかし、その後、実際には皆がイエス様から逃げて散っていきました。イエス様がおっしゃったとおりになりません。たぶんこの時にペテロがイエス様の前で言ったことは、格好つけて言ったことではないと思います。ペテロの本心であり、ペテロの本当の気持ちだったと思います。しかし、それがその思いどおりにうまくいかなかったということを私たちはもう知っています。このことを通して、どのようにすれば人生に勝利できるか、本当に様々なことが待ち構えている人生を歩いている中で勝利の武器、勝利の力はいったい何なのか、どこにあるのかを考えましょう。

そのためにまず基本的にこのようなメッセージを心の中に留めて、憶えていないといけないと思います。

その第一が何かというと、基本的に世にあるものは人生の勝利の武器にはなれないということです。

多くの人が基本的に(別に悪気はありません)自分が努力すればその分、報われるだろうと思って、「どれほど努力するか」を武器にします。また、経済的に裕福になり、豊かになれば人生は勝利するだろうと思って、その経済の豊かさそのものを人生勝利の武器にしようとするのです。また、この世において認められて、成功を収めることができれば、それこそ勝利の人生ではないのかと思い、その認められること、成功すること、それを武器にしようとしています。それが要らないという幼稚な話ではありません。しかし、ここで信者の私たちは冷静に考えなければいけません。もちろん努力してその分、報われて経済的にも豊かになり、世的に成功を収めた人も少なくありません。しかし、私たちは彼らの上辺だけを見ているだけであって、実際、彼らの人生の中に入り込んで素直に見るとすれば、その中で本当に幸せな人間、本当に私は人生に勝利したと宣言できるような人がいるのでしょうか。ということを吟味して真剣に考えなければなりません。しかしながら世の中の人々はそういったものが人生の勝利のための武器だと普通に思うので、それを身につけるために、それをより強力に持つために、占い師の方に走ったり、偶像を拝んだり、宗教を求めたりするものなのです。占いや偶像、宗教などは世の中の人々が普通に人生勝利の武器がそういうものだと思い込んでいて、そこから生まれるものなのです。しかし、それでは人生の勝利の武器にはならないということは今までの歴史を通して、また、ひとりひとりの人生 Story を通して明白ではないでしょうか。なぜなのでしょう。努力したにもかかわらず、経済が手に入って人から評価されたにもかかわらず、なぜ幸せではないのでしょうか。なぜ本当の意味で人生の勝利に繋がらないのでしょうか。それは彼らが全く分かっていないことがあるからなのです。人生、そして世の中は、目に見えるものがすべてではありません。そういったものは人生を生きるために必要な手段には間違いありませんけれども、勝利の武器にはなりません。なぜなら、それは目に見えない暗やみの勢力には勝てないからです。暗やみに勝てない限り、人生の勝利は期待できません。暗やみに勝てないどころか人の努力や能力、経済、また成功などを武器にしている限り、どんどん暗やみにはまってしまうこととなります。それを求め続けてたど

り着くところは結局暗やみの極めたところになってしまうものなのです。これをまずクリスチャンとして基本的に人生勝利の武器を扱うときに抑えておかなければいけない項目です。世の中は普通にこれが武器だと皆思って頑張り、また親でも学校でもそういう風に教えているからです。しかし、素直な人、正直な人は、このようなものが必要なもの、また、便利にはなりますけれども、人生勝利の武器にはなれないということに気づくので、そこでこのようなことを言い出します。だから、そういうものがなくても真心があれば人は通じるものなんだ。人生において一番大切なのは真心なんだと訴えるようになります。格好良い言葉に聞こえるでしょう。それが正解のように聞こえるかもしれませんが、しかし、クリスチャンの私たちは吟味して注意しないとイケません。

今日の聖書を通して私たちが教えられることは、それは二番目のメッセージになります。

人の真心と決心は人生勝利のまことの武器にはなりません。

これが限界なのです。神様を知らない人の限界です。多くの人が言います。また、賢人たちも言います。人の能力、富や地位がなくても真心があれば通じるんだと。どこまで言うのかと言いますと、世の中では真心があれば天とも通じるよとまで言っているのです。私が日本に来て間もない頃、日本の神学校に聴講で一学期通ったことがあります。その時に教授の牧師先生がこういうことを言いました。日本人が一番重んじる価値は、「まこと」なんだと。だから、人生勝利の鍵はそのまことにありとみんな思っている。そして、人を評価する基準もまことなのかどうかを基準にして人を評価したり、ものを判断したりしているところなんだ。これから伝道するためには、そういうことをよく参考にしなければいけない、ということをおっしゃいました。それから長い間、日本に暮らしながら、なるほど、そうなんだなということをつくづく感じています。まことというのは非常に響きの良い、また非常に大切な言葉です。辞書を調べると、まことと真心とはほぼ同じ意味になっています。それが底辺の正解のように、もう普通の文化になっている国で生まれて、ずっと教育を受けて育ってきました。だから、キリスト教会に入ったとしても、ほとんどの日本人のクリスチャンの方々の基準がまことになっているのです。でも、本当にまことこそ人生の勝利の鍵なののでしょうか。まことこそ最高の価値なののでしょうか。それは神様を離れた人間の方から求めて極める最高のものになるかもしれませんが、人間の方から生まれたものなのです。今日の聖書はそのまこと、真心というものが全く勝利の武器にならないということの証明ではないのでしょうか。ペテロと弟子たちは真心と、そして、決心までしました。しかし、それが彼らを守ることはできませんでした。決定的な時にイエス様を捨てて、イエス様から逃げて行くようになりました。真心、決心、まことということは、必要な物に間違いありませんけれども、必要であることと人生の勝利の武器であることとは別の話だということをおき今日明確にしておかなければなりません。もちろん嘘、偽り、詐欺を働いたり、コロコロ変わったりということをおきを弁護するつもりはありません。それはまず論外であって、しかし日本人が最高の価値、究極の答えだと思っているまことでさえ自分自身を守ることができません。皆が勘違いして、自分自身に洗脳しているわけです。まことさえあればと。本当にそうなののでしょうか。人間の真心とはそれほど信用できるものなののでしょうか。何を人に求めているのでしょうか。皆さんは何を武器にして、これからの人生を生きて行こうとしていらっしゃるのでしょうか。私の力ではどうにもならない様々な状況、いろんな展開が待っている、それが人生ではないのでしょうか。ほとんどの人がそうでない人もいますが、人との出会いを通して心からその人が好きになります。それは本心だと思います。その好きになった気持ちが恋に発展して、それで結婚に至ります。それでその本心から真心から好きだった気持ちがどこまで長続きしたのでしょうか。ここにそういう経験をしていらっしゃる方も数多くいらっしゃると思いますけれども、それが人間の真心というものなのです。旧約の聖書を見ますと、サウル王が王様として神様の指示によりイスラエルの初代王として呼ばれた時、一番最初自分の身を隠しました。私はそんな資格もないし、そんな人間じゃありませんという謙虚な思いでした。その時のサウロのその謙虚な思いは嘘、偽りではないと思うのです。本心だったと思います。それが真心だったと思います。しかし、ご存知のようにその後、サウル王のその謙虚な本心というものは、人間が持っている真心というものはどこまで続いたのでしょうか。皆さんご存知のことではないのでしょうか。それが人間の真心というものなのです。もちろん、生きて行くために嘘、偽りではなくて、真心とまことを持って接して行くというのはとても大切なことです。基本的な話でしょう。しかし、今日明確にしておかないといけないことは、それが人生の勝利の武器になるものではありません。生きるための一つの

手段なのです。キリストのない真心と決心というものは、結局限界を見るようになります。限界を見るので真心だったからこそより落胆して、落胆はより深いものになってしまいます。これが人間の真心の限界というものであり、今日の聖書の箇所を通して私たちが見て確認するものなのです。この聖書の教えに心を開いて素直になっていただきたいなとそう願います。なぜこのようにお願いするかと言いますと、先ほども申し上げましたように、基本的に神から離れて人間が中心になって生きてきたので、本能的に真心というものを最高の価値につり上げるわけです。しかもそのことが文化になって、世界で一番にまことを大事にしている国で生まれて育ってきて、そういう雰囲気の中で教育を受けてここまで歩いてきたということを背景にして考えた時に、皆さんは謹んでみことばの前に素直にならないといけません。人間中心主義を極めている国が私たちが今暮らしているそのような国なのです。人の真心はとても大切です。しかし、人生を勝利するための武器にはなりません。なぜなのでしょう。キリストのない人の真心も暗やみの勢力には勝てません。悪魔、サタンは、その人間の真心というものはちっとも恐れないのです。それをもってむしろ自分のおもちゃとして遊ぶことができる能力を持っているものなのです。だからこそ、私たちは改めて気をしっかりして、世にあるもの、どんなに必要なもの、すごいものでも勝利の武器にはならない。しかも皆が最高に期待を寄せている人の真心、まこと、また決心というものも必要なものでしょうけれども、自分の人生の勝利の武器にはなれないものなんだということに釘を刺しましょう。

では人生勝利するためには何が武器なのでしょう。どうすればいいのでしょうか。聖書は1秒も迷わずに最初から最後までその答えを語っています。ただ信者の私たちが聞く耳を持たないのです。今までの古い人間にずっと囚われて、ずっとまだ親しくなっているから。

人生勝利の武器は、キリストを信じる信仰によって生きることです。

これは今まで勘違いして武器にしていたすべてをちりあくたと宣言することです。何かにプラスする、加えるという次元の話ではありません。キリストを信じる信仰によって生きることこそ勝利の武器になります。キリストを信じる信仰によって生きるということは、今まで私中心、目に見える肉が中心、この世が中心になって生きてきたその生き方を後悔することなのです。その生き方は因果応報にこだわる生き方でした。それを後悔することです。因果応報が何かよく吟味して考えてみてください。それで聖書が言っている通りにパロロはこのように言っています。今までパウロは人生の勝利のために、自分の熱心、世にあるさまざまなスペック、また律法等々のものにこだわっていました。しかし、それが自分自身に勝利も幸せも何ももたらすことはできないということに気づいて、キリストの前に屈服したあと、パウロはやっと初めてわかったのです。どのようにこれから人生生きていくべきなのか。キリストのほかには、聖書のほかには教わることはできません。世の中のどこに行っても、どんなに凄い教育のところに行っても教わることはできません。全部が世の中のものですから。パウロは人生を生きることはこのような法則によって生きるんだということに気づいて告白しました。ガラテヤ2:20「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく」、こうなったときに初めて可能なのです。人生を勝利者として生きることは、「キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです」。今までのパウロの生き方を全部捨てて、それが馬鹿だった、愚かなことだったと認めることです。ちりあくたと切り捨てて、それじゃないということが、キリストを信じる信仰によって生きるということです。自分がどんなに弱い人間でも弱い自分にこだわって因果応報によって左右されるのではなくて、その弱い自分が問題にならない、弱い自分がむしろ祝福になるしかない、キリストを信じる信仰によって生きるわけなのです。聖書を見ますと、聖霊が教会に語ることを聞く耳のあるものはちゃんと聞きなさいというフレーズがあります。ぜひ聖霊様が皆さんに語る神の御旨、御声を聞き入れていただきたいと思います。パウロはこのようにも告白しています。ローマ7:24-25「私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか」。自分がどう考えてどうあがいても良いことを考えても、実際についていけない自分、自分の弱さ、どれほど自分のことを表現しているかと言いますと、この死のからだというほどです。でも、その弱さやその葛藤に溺れて負けるのではなくて、それが悪い良いどうのこうののではなくて、にもかかわらず、それが問題にならないように、その私のためにその弱さのために十字架で死なれたキリストを信じる信仰によって生きるわけです。これこそが

この世にはない生きる法則であり自由なのです。だからパウロはそのように誰が私を救い出してくれるでしょうかと言った途端に1秒も迷わずに私たちの主イエスキリストのゆえにただ神様に感謝します。キリスト・イエスのうちにあるいのちの御霊の原理が死と罪の原理から私を解放してくださった、そのキリストを信じる信仰によって生きるわけです。死のからだと表現するしかない自分に気持ちが悪くて溺れ落ち込むのではなくて、分かりますか。信仰によって生きるということがどういうことなのか。悪魔は罪人の本能通りに信仰によって生きるその法則ではなくて死と罪の原理にそのまま囚われて、因果応報の法則でアップアップするように惑わしているものなのです。皆さんの周りを見ると到底、理解できない理不尽な人間ばかりでしょうか。もちろん、自分の眼が曲がっているからそのように映る場合がほとんどなのですが、でも実際そうだとしましょう。それがどうした？それがどうのこうのではなくて、それが問題にならない、そのすべてに打ち勝った今も聖霊を通して働いて導きらっしゃるキリストを信じる信仰によって生きるわけなのです。だからダビデも言いました。詩編23:1、死の影の谷を歩くときに、死の影の谷がどうのこうのという風に囚われて気にするような因果応報の法則、肉の法則ではなくて、そこで「主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません」。つまり、イエスはキリスト、キリストを信じる信仰によって生きるわけです。世の中の人が聞くと意味も分からないし、バカじゃないのというようなことなのです。これが人生勝利の武器です。だから弱くても環境が陰しくても構わないのです。必ず勝利できます。なぜ勝利できないのかと言いますと、勝利の武器を違うところから購入しているからです。戦争のためにはアメリカなどからいろんな武器の支援が必要でしょうけれども、人生勝利のためには人から提供される武器、どこかから手に入れる武器、それは武器になりません。キリストだけです。今も万軍の主として生きていらっしゃる、すべてを完了されて悪魔の頭を踏み砕いて勝利なさった、私の罪のために十字架で血を流されて、死ぬほど私を愛してくださったキリストを信じる信仰によって、自分の弱さがあり、また倒れた時でも惨めな自分がもろに出た時でも、その惨めな自分のために十字架で血を流して死ぬほど私を愛してくださったキリストを信じる信仰によって倒れることなくつまづくことなく突き進むようになります。知らない人、世の中の人が見たときにはずうずうしいと言う場合もあります。いくらでもずうずうしくても構いません。それが生きる方法なのです。どのような状況でも負けることは本当は許されていないのです。なぜ負けるのでしょうか。厳しいからでしょうか。能力がないからでしょうか。理解してくれる人が周りにないからでしょうか。社会の制度があまりにも理不尽だからでしょうか。違います。キリストを信じる信仰を武器にしていないからです。なぜ過去にこだわるのでしょうか。その過去はどのような憎い人間でもキリストとともに十字架で死んで、その過去を完全に作り変えられたキリストを信じる信仰に立っていないからなのです。イエス様も最後におっしゃいました。弟子たちにその最後にイエス様の言葉を聞いていた弟子たちは、本当に乞食みたいな人間ばかりで、迫害の状況で国はローマの植民地でした。そこで何をどうすればいいでしょうかと聞くのが普通でしょう。その時、イエス様が不思議なことをおっしゃいます。それはあなたがたを知らなくてもいい。私たちは生きる法則が違うから。植民地であれ、あなたがたが乞食のような人間ばかりであれ、迫害がどれほど激しくあるにしてもそれは構わないだよ。それがどうのこうのでこれから生きるのではない。そうすると負けだよ。あなたがたは知らなくていいです。ただ聖霊があなたがたに臨まれるときに、天の御座にいらっしゃって信じるひとりひとりに教会に聖霊を水のように注がれるキリストを信じる信仰によって生きるわけです。これが分かったときに初めて祈れるようになります。これが分かったから始まるものを祈りと言います。パウロは言いました。刑務所の中でペリピ4:12-13「私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にも知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです」。貧しい時もある。豊かな時もあるし、飽く時も飢える時も富む時も乏しい時もあります。それがどうした？です。なぜなら、そういうことがどうのこうの生き方ではなくて、その中で私を強くしてくださるキリストを信じる信仰によって生きるから私はどちらでも対処できるのです。これこそが勝利です。これを御座の祝福と言います。これでない世の中は皆さんが考えているような甘いことばかりではないので、その都度、その都度、右は右、左は左、風が吹くままに揺れ動くようになります。どうして勝利できるのでしょうか。良いことがあって嬉しいなあ。ハッピーだなということは普通に皆できるのです。でもそれがずっと続くわけではありません。そういうことばかりではありません。人生勝利の武器はここにあります。ヘブル人への手紙11章を見ますと、旧約の聖書でそこにイエスという言葉は出ていません。しかし、簡単にまとめますと、さまざまな試練があり、いろんな反対があり、いろんな環境、いろんな状況があったにもか

かわらず、キリストを信じる信仰によって生きてきて勝利した者の証拠が集められているところがヘブル 11 章なのです。それを背景にしてバックにしてヘブル 12：1-2 でこのように言われています。

「こういうわけで、このように多くの証人たちが」、つまりキリストを信じる信仰によって、人生勝利できるんだという証人たちが、「雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい」。これが勝利の武器です。植民地の状況、すぐに何も変わらない迫害されている状況、明日死ぬかもしれない状況であるにもかかわらず、それがどうのこうののではなくて、信仰の創始者、完成者であるイエスから目を離さない、イエスに目を注ぐことが勝利の秘訣なのです。そこからすべてが与えられるようになります。これが人生勝利の秘密なのです。ペテロがこの後、イエス様を三度も目の前で否定して大変な失敗をしガッカリして田舎に戻って釣りをしていました。そこにイエス様が現れて、その失敗しているペテロに何をおっしゃったのでしょうか。あなたは私のことを愛しているのか。つまり、失敗がどうのこうののではなくて、イエスを見上げるように。イエスに目が行くように。そこしか勝利はないから。今更なぜそういうことをしたんだろう。本当にお前はひどいなということでは何も役に立ちません。人生勝利の武器はイエスなのです。信じる信仰です。そこを確認しました。そこに持って行きました。でもほとんどのクリスチャンが自分自身を始め、周りのさまざまな失敗をそこに持っていきこうとしないでしょ。是々非々、決着をつけようじゃないか。クリスチャンだからこそ、よりそれが激しい人もいます。律法的に。だから負けるのです。キリスト教会、また聖書の大命題、ローマ 1：17

「義人は信仰によって生きる」「信仰に始まり信仰に進ませる」と言われる。これがキリスト教会です。重荷を全部下ろして、今までまとわりついている古い法則を全部脱ぎ捨てて、イエスを見あげてイエスから目を離さないように。その時に初めて目に見えない暗やみの勢力が砕かれて勝利を味わうようになります。別の言葉で神の国が具体的に臨まれまして見られるようになります。これが人生勝利の武器です。だから能力あるかないか、社会的な地位がどうのこうの、環境がどうのこうのと一切関係なく、クリスチャンであれば誰でも勝利できるわけです。これは誰にでも許されている祝福ですから。キリストを信じる信仰によって。心があまりにも淋しいでしょうか。とても理不尽で心がイライラしてるのでしょうか。うつな気持ちになるのでしょうか。キリストを信じる信仰の方に自分を運んでいくようにしましょう。イエスから目を離さないようにしましょう。その戦いなのです。そうすると、不思議なことに目に見えない暗やみが砕かれるので、気持ちが晴れてくるわけです。不思議でしょう。もちろん気持ちが晴れるだけのことではありません。

結論を言いましょう。だから、これからは条件、環境、状況に左右されて、つい誰かのせい何かのせいにする、それがもう身についている習性になっているのですが、その習性のままであれば、一生勝利とは無縁なものになるんだということを肝に銘じましょう。それが事実であれ、正しく判断したことであれ、左右されて誰かのせい何かのせいにすることは勝利とは無縁なものなんだと、だからそれを切り離してイエス様から目を離さないようにしましょう。イエス様から目を離さないというのはどういうことなのでしょう。それはパウロがこのように言いました。I コリント 1：30 「しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いともになりました」。つまり、今の私たちで言いますと、イエスはすべてを完了したキリストだ。そのイエスが私のいのちなんだ。イエスは宝である。だから自分の中で一番貴重なものを失ったとしても宝はそのままなのです。だから動じません。イエス様を宝として信じる、イエス様は今、万軍の主なのです。歴史の主です。世界福音化の主です。それを信じる信仰によって生きるわけです。世界は今パンデミックで戦争で災難、地震などで大騒ぎです。しかし、イエス様から目を離さないで、イエス様はその中で世界福音化をしていらっしゃるのです。それを信じる信仰によって世界を生きるわけです。となると、そのすべてが世界福音化のプロセスなのです。それを世界の御座化と言います。そして、イエス様は今現在も御座において奇跡とするしをもってみことばを確かなものにしていらっしゃる方です。それを信じるからみことばを伝えるわけです。イエス様は今も教会と信者を聖霊で満たしておられる主です。それを信じるから思い煩わないで祈るわけです。信じる信仰によって。人を裁いたりしないで祈るわけなのです。これがイエス様から目を離さないで生きるということです。皆さんに必ず皆さんが想像もしていなかった勝利を味わうようになるでしょう。勝利者として堂々と歩いて行きましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今までの生きる法則を後悔して、それは暗やみには通じない、かなわないということを素直に認めて、キリストを信じる信仰によって生きる信者としてひとりひとりを整えてください。勝利者として証人として用いられることを信じて、主の御名をほめたたえます。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン